

小中一貫校検討の背景について

20180619 和泉市教育委員会

≫ 説明内容

1. 何故、施設一体型小中一貫校を検討しようとしているのか。
2. 児童生徒数が減少しているために、施設一体型小中一貫校を検討しているのか。
3. 大規模校では、小中一貫校の検討はしないのか。

1. 何故、施設一体型小中一貫校を検討しようとしているのか。

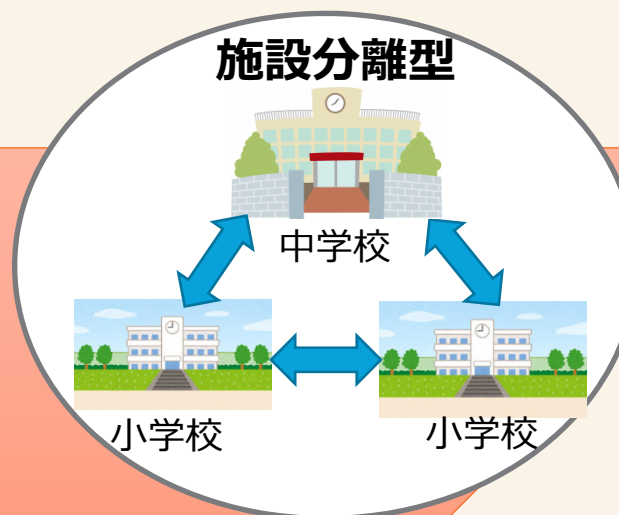
- 和泉市では、平成29年度から市内全ての学校において、「小中一貫教育」を実施。
- 南松尾はつが野学園では「施設一体型」、その他の学校は、「施設分離型」の小中一貫教育を実施。

施設一体型



小中一貫教育

施設分離型



施設一体型とすることで、より一貫教育の効果が期待される。

施設一体型の検討へ

小中一貫教育における効果イメージ①

【指導体制】

	従来（H29まで）	分離型	一体型
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>小学校は担任教員による授業</u> ● <u>中学校は専科教員による授業</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 校区内の小中学校の連携により、<u>中学校の教員が小学校で授業を部分的に実施</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● （イメージ例）小5・6年生のほとんどの算数を<u>中学校の教員が授業実施</u>
効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 小・中学校各々の<u>独自性を生かして教育</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校の<u>雰囲気を感じとってもらえる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科指導の面等で小学校の段階で、<u>中学校の視点を踏まえた指導を受けることができる。</u> ● 学校の教育方針に応じて、<u>柔軟に教科や実施学年を検討できる。</u>
課題	<ul style="list-style-type: none"> □ <u>他校での教育内容を把握しにくい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校間の移動があるため、<u>教科が限定的になり、回数、頻度にも制限がある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 担当教員が複数学年を指導するため、<u>教材研究・授業準備の時間確保や発達段階に応じた指導をする必要がある。</u>

小中一貫教育における効果イメージ②



【教育内容】

	従来（H29まで）	分離型	一体型
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校、中学校<u>それぞれで教育内容・授業の進め方を整理</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校と中学校の教員が一貫し、<u>系統立った教育課程を整理する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員室が一つとなり、<u>日頃から教員間の共通理解が図りやすい環境</u> ● 小学校・中学校の教員が<u>互いに授業や活動の様子について、移動なく確認</u>
効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 各教員が<u>専門性を活かした実践</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>授業を受ける子どもたちの理解が進む。</u> ● <u>さらに高い課題を与えることができる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>授業改善の意見交換が進み、わかりやすい授業につながる。</u>
課題	<ul style="list-style-type: none"> □ 同じ分野での指導内容について<u>共通理解が図りにくい。</u> <p>※算数から数学への連結・系統的な指導の意識など</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ <u>学校間での調整に時間と負担が掛かる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □ すべての教員が、すべての教科、領域において、<u>9年間一貫した教育課程に基づき教育を実施することが必要</u>

小中一貫教育における効果イメージ③



【学校行事】

	従来（H29まで）	分離型	一体型
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>各種活動が1つの小学校、1つの中学校で展開される。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>共通のイベント等（交流給食や合同授業、中学校への体験入学など）を実施</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>常に同じ敷地で学校生活を送るため、上級生による小1・2年生への「読み聞かせ」や「交流給食」など、異学年交流の企画が容易</u>
効果	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>各校種単位の集団で、行事間の関連や統合を図りやすい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>小学校間の交流、中学校区での児童生徒の交流による自己有用感の育成</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>異学年交流の機会が増える。</u> ● <u>低学年は高学年に憧れを持ち、高学年は低学年を見守る意識が高まる。</u>
課題	<ul style="list-style-type: none"> □ <u>中学校区内において、行事で育成したい子ども像が共有されにくい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □ <u>教員間の打合せなどの負担や効率性に課題</u> 	<ul style="list-style-type: none"> □ <u>学年単位での行事、全体の行事等、実施にあたっての連絡調整等が増加する。</u>

2. 児童生徒数が減少しているために、 ≫ 施設一体型小中一貫校を検討しているのか。

多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて**一人一人の資質や能力を伸ばしていく**という学校の特質を踏まえると、小・中学校では**一定の集団規模が確保されていることが望ましい**。

また、

基本的な考えとして

仮に**1学年1クラス**であっても、**施設一体型小中一貫校**とすることで、**9年間の系統立った教育等を受けることができるため、有益と考えている**。

≫ 3.大規模校では、小中一貫校の検討はしないのか。

例えば…

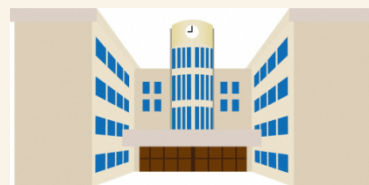
小中一貫校により、児童生徒で3,000人程度の規模となる中学校区も…

懸念

小中一貫校の導入により過大規模化する場合、教育環境の悪化につながる懸念。

課題

学校規模は大きすぎても、小さすぎても課題あり



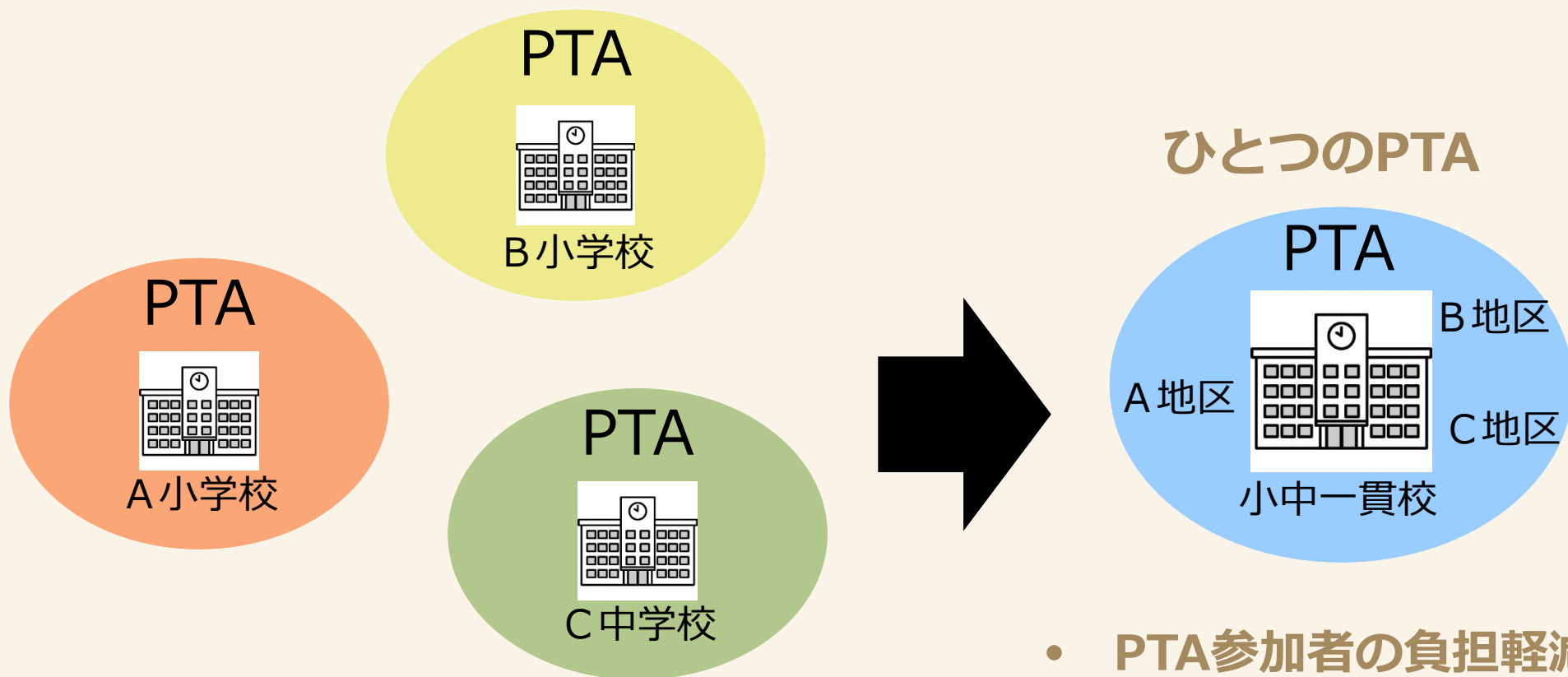
**施設一体型として適正規模が見込まれる校区から
小中一貫校を検討。**

小中一貫校によって期待できる 地域への波及効果について

和泉市政策企画室

小中一貫校によって期待できる地域への 波及効果について

- PTA活動の活性化

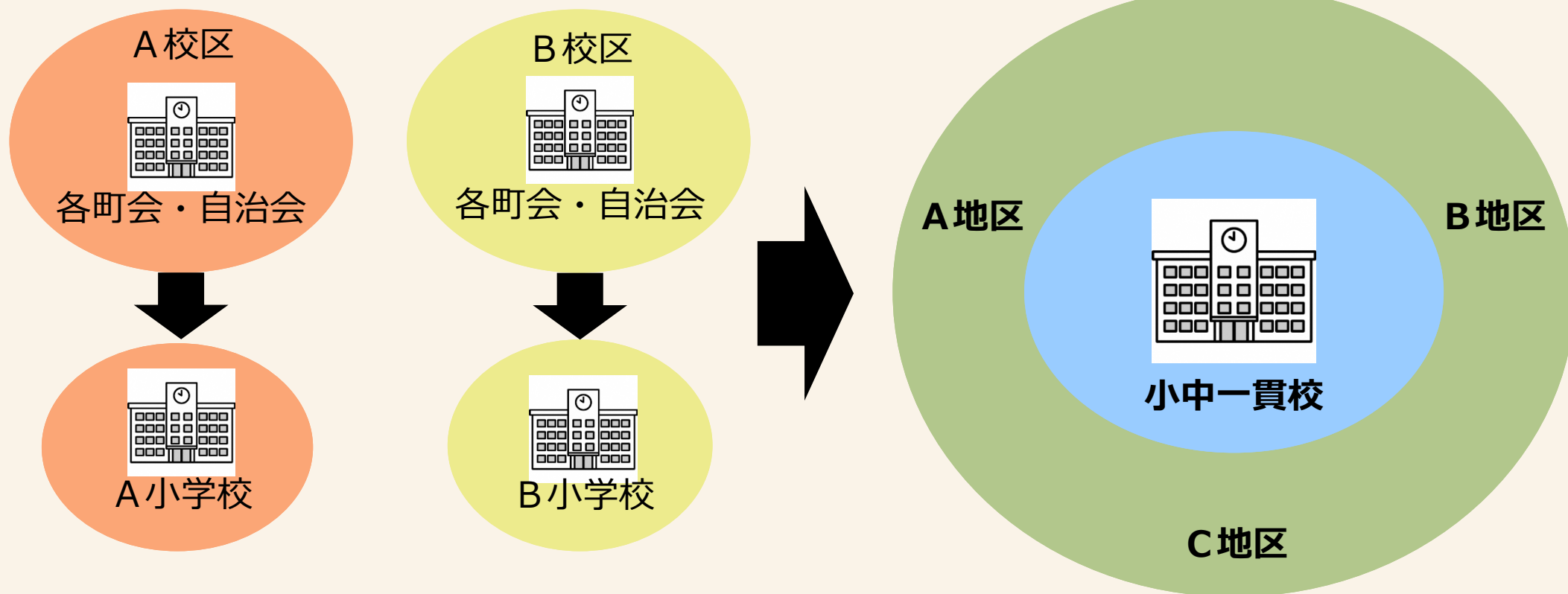


現在は個々の校区でのPTA活動

- PTA参加者の負担軽減
- PTAの交流増による一体感が生まれる

小中一貫校によって期待できる地域への 波及効果について

- 町会等の支援



校区ごとの支援

中学校区全体での支援

小中一貫校によって期待できる地域への ≫ 波及効果について

- 人口の流入増・流出減

